

事務事業名	児童館臨時職員雇用事務		所属部局	保健福祉部		単位番号	5105				
	☐ 実施計画事業		所属課室	子育て支援課		課長名	奥石和子				
			所属担当	児童館担当		担当者名	朽原勝み				
基本政策	基本計画体系	IV 快適で心のかよいあう都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目	
政策		17 社会福祉の充実	事業区分	01	一般	03	02	07	05	006	
施策		28 児童福祉の充実		☐ 国の制度による義務的事業	☐ 施設等維持管理事業						
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度)	法令根拠		南アルプス市立児童館条例・施行規則							
	☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)										
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載		事業費の主な内訳 (22年度)								
	児童館は、遊びを通じた児童(18歳まで)の健全育成を目的とする児童厚生施設である。子どもにとっての遊びは、総合的に学べる学習の場として位置づけられ、児童館にいる指導員は有資格者(児童厚生員・教職員・保育士・幼稚園教諭)であり児童の健全育成に欠かせない大きな役割を担っている。平成23年度は常勤13名・代替11名で運営して行く。		項目(細節) 金額(千円) 項目(細節) 金額(千円)								
			賃金 27,325								
			計 27,325								

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	5児童館の臨時職員の任用・賃金・シフトの管理等予算の執行
23年度活動予定	6児童館の臨時職員の任用・賃金・シフトの管理等予算の執行
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
常勤臨時職員・休暇代替職員	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
児童館運営が円滑に行えるように調整・整備・管理する。	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
より高い児童福祉の充実	

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 児童館利用者数	人
イ	
ウ	
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 常勤臨時職員の数	人
イ 休暇代替職員の数	人
ウ	
⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 充実した仕事であるかの意識度	%
イ	
ウ	
⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 市民の満足度	%
イ	

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	22,232	27,325	34,924	33,166	33,166	33,166	
		事業費計 (A)	千円	22,232	27,325	34,924	33,166	33,166	33,166	0	
	人件費		正規職員従事人数	人							
			延べ業務時間	時間							
			人件費計 (B)	千円	0	0	0	0	0	0	0
			(A)+(B)	千円	22,232	27,325	34,924	33,166	33,166	33,166	0
活動指標			アイウ	人	52,667.0	78,828.0	79,000.0	79,000.0	79,000.0	79,000.0	
対象指標	アイウ	人	8.0	10.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0		
		人	7.0	8.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0		
成果指標	アイウ	%									
上位成果指標	アイ	%	33.8	38.4							

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	若草なかよし児童館が一番古く、平成5年当初から児童館には児童に遊びをとおして社会性を身に付ける支援をする「児童厚生員」を配置した。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	子育て家族の勤務状況の変化が見られる。母親の就労率が高くなってきている。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか?	

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	☐ 取り組みしている ⇒【内容!】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由!】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	児童厚生員スキルアップ研修参加
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	児童厚生員の各種研修会への参加・市内児童館児童厚生員交流会・研修会の開催

事務事業名	児童館臨時職員雇用事務	所属部	保健福祉部	所属課	子育て支援課
-------	-------------	-----	-------	-----	--------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 児童館における児童厚生員の役割は、児童の健全育成支援につながるため児童福祉の充実に結びついている。
	②公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 現在、子育て支援に関しては、NPO法人、民間等多くの団体が行っている。公立では、規制が多く来館者のニーズに応えられない部分が出てきている。今後、民間(地域)に委ねて市民のニーズに応えられる方向に進めたらどうか。そのためにはNPO等の育成も必要になってくる。
	③維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 対象者は児童館の臨時職員なので適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 児童館は放課後児童クラブも併設し、そこも児童厚生員が配置されている。児童館と放課後児童クラブ児童館の指導員がお互い協力体制がとれるようにする。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない
	⑥休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 臨時職員がいないと児童館活動が出来なくなってしまう。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 雇用契約しているため。
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 臨時職員の賃金は人事課で統一されているので削減は出来ない。
	⑧人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 平成23年度甲西児童館が開館した。児童館の常勤臨時職員も増員した。行事やイベントなど出る回数を工夫することで、代替職員の勤務時間を削減することができるかもしれない。
公平性 評価	⑨受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 児童館における児童厚生員の役割は、市内の児童の健全育成支援につながるため公平公正である。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	指定管理者制度の導入を検討する。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について																								
① 指定管理者制度の導入について検討する																								
②																								
③																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		(5) 事務事業優先度評価結果																						
①																								
②																								
③		<table><tr><td>成果優先度評価結果</td><td>⑧</td></tr><tr><td>コスト削減優先度評価結果</td><td>⑥</td></tr></table>		成果優先度評価結果	⑧	コスト削減優先度評価結果	⑥																	
成果優先度評価結果	⑧																							
コスト削減優先度評価結果	⑥																							